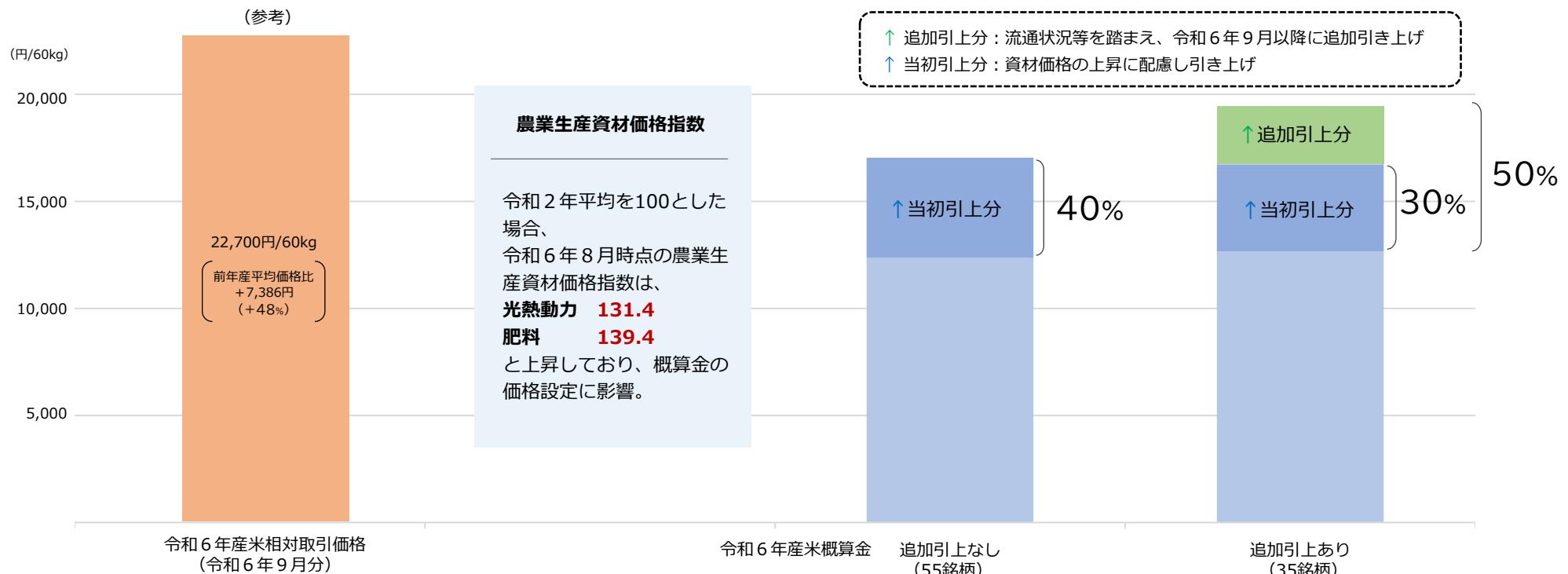
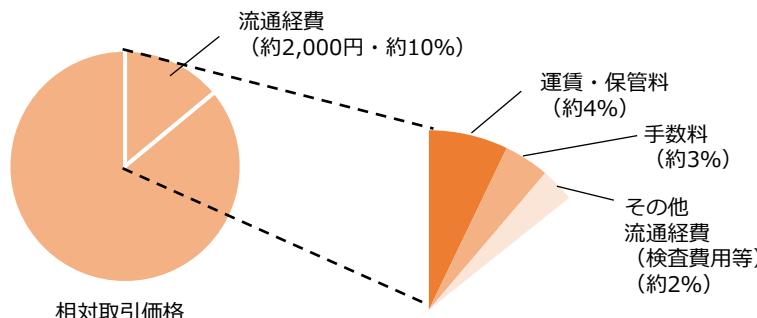


# 6年産米の概算金の設定と相対取引価格の状況



※概算金は、業界紙情報及び集荷業者等からの聞き取りによるもの（令和6年10月23日現在）。

## 米の集荷・流通に関する経費



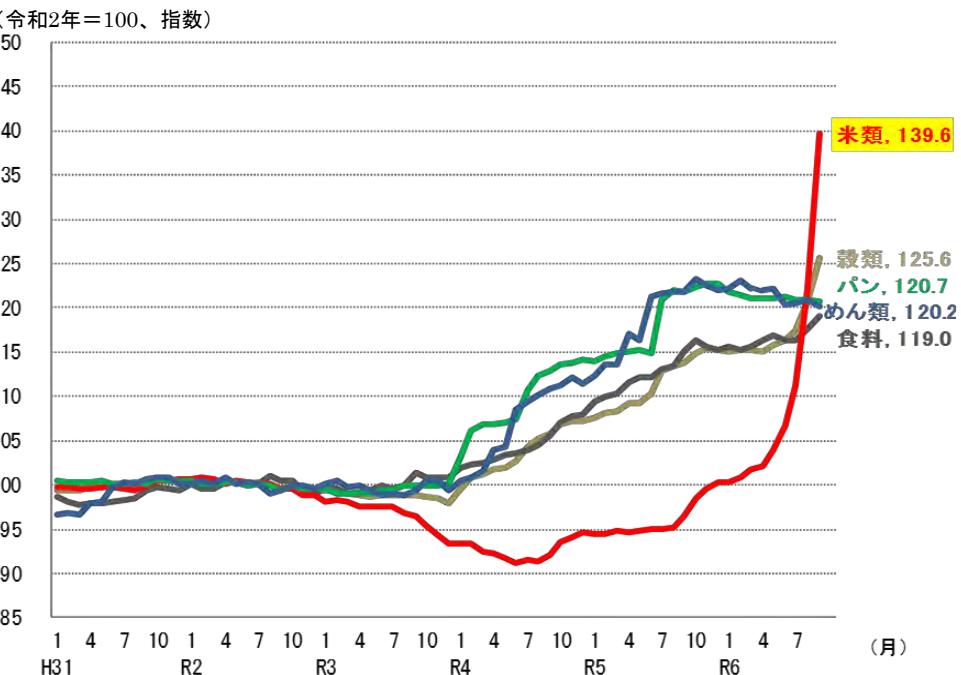
- 集荷団体が行う米の集荷・流通等に要するコストは、各県・銘柄によって異なるものの、概ね約2,000円/60kg（約10%）と推定される。
- 内訳は、通年供給にかかる保管料、産地から消費地への運賃等が4%、手数料が3%、その他（安全安心にかかるサンプル検査費用、広告宣伝費用他）が2%程度と推定される。

※流通経費は、集荷業者等からの聞き取りにより算出。

# 消費者物価指数の推移

- 令和6年9月の消費者物価指数（総務省、令和2年基準）は、食料全体が119.0、うち米類は139.6、パンは120.7、めん類は120.2。
- 米類については、他のパンやめん類等と比べ緩やかに上昇していたものの、8月以降は大幅に上昇。

	食料	(令和2年=100、指数)												
		穀類	対前年 (同月)比	米類 (うるち米)	対前年 (同月)比	うるち米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	パン	対前年 (同月)比	めん類	対前年 (同月)比			
											穀類	対前年 (同月)比		
令和元年 (平均)	98.7	0.4%	99.9	0.9%	99.9	0.2%	100.1	0.9%	100.3	0.9%	99.1	2.2%		
2年 (平均)	100.0	1.4%	100.0	0.1%	100.0	0.1%	100.0	▲0.1%	100.0	▲0.3%	100.0	1.0%		
3年 (平均)	100.0	0.0%	98.8	▲1.2%	96.8	▲3.2%	96.7	▲3.3%	99.5	▲0.5%	99.7	▲0.3%		
4年 (平均)	104.5	4.5%	103.7	5.0%	92.6	▲4.3%	93.3	▲3.5%	109.6	10.1%	107.1	7.4%		
5年 (平均)	112.9	8.1%	111.5	7.5%	96.1	3.8%	96.3	3.2%	118.4	8.1%	118.9	11.1%		
令和6年 1月	115.7	5.7%	115.0	7.0%	100.3	6.2%	100.1	5.3%	121.8	6.9%	122.1	8.7%		
2月	115.3	4.8%	115.3	6.6%	100.9	6.8%	100.2	5.3%	121.4	6.0%	123.1	8.4%		
3月	115.7	4.8%	115.2	6.3%	101.7	7.2%	100.8	5.8%	121.0	5.4%	122.2	7.6%		
4月	116.4	4.3%	115.1	5.3%	102.2	7.9%	100.8	5.8%	121.0	5.2%	121.9	4.2%		
5月	116.8	4.1%	115.8	6.0%	103.9	9.5%	102.0	8.1%	121.1	5.2%	122.1	4.9%		
6月	116.3	3.6%	116.3	5.4%	106.7	12.3%	104.6	9.7%	121.3	5.5%	120.3	▲0.8%		
7月	116.4	2.9%	117.5	4.2%	111.3	17.2%	109.6	15.6%	120.9	0.0%	120.6	▲0.8%		
8月	117.6	3.6%	120.8	6.5%	122.1	28.3%	119.8	25.6%	120.9	▲0.9%	120.9	▲0.7%		
9月	119.0	3.4%	125.6	10.4%	139.6	44.7%	137.4	41.9%	120.7	▲0.9%	120.2	▲1.3%		



資料：総務省「消費者物価指数」令和2年基準、品目別価格指数（全国）

注1：食料は、穀類以外にも、魚介類、肉類等を含んでいる。

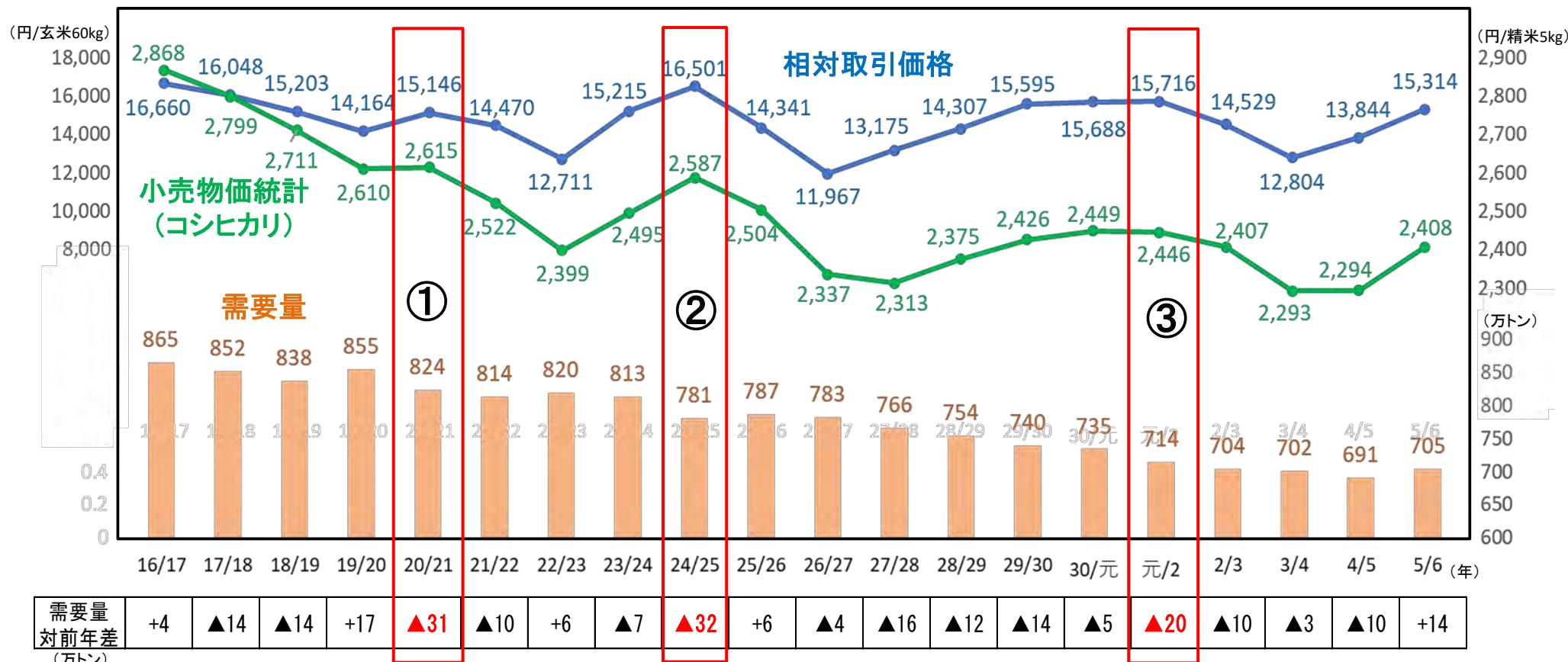
2：穀類は、米類（うるち米）、パン、めん類、他の穀類からなる。

3：令和元年～5年のデータは年平均、6年は月次データである。

## 過去における米価と需要の関係について(その1)

- 過去において、米の相対取引価格や小売価格が上昇したり、他の食料品と比べ相対的に米が割高となったりしている年は、前年より需要実績が大きく減少（なお、令和元/2年については、価格面よりコロナウイルス感染症による社会・経済活動の停滞等が需要量に影響したと考えられる）。

### 【主食用米の需要量と相対取引価格・小売物価統計の推移】



※1 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで(5年産は出回りから令和6年9月までの速報値)の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。なお、17年産以前は(財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果に基づく取引価格である。

※2 小売物価統計(コシヒカリ)は、総務省「小売物価統計」動向編による東京都区部における精米価格(7日以内の特売分を除く)であり、包装代、消費税相当額が含まれている。

※3 需要量は、当年7月から翌年6月までの主食用米等の需要量である。

# 過去における米価と需要の関係について(その2)

## 【需要減の背景】

①	<p>① &lt;需要の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>平成20/21年の需要実績は824万トンと、前年実績差▲31万トン(▲3.6%)。</li></ul> <p>① &lt;米価の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>食料の消費者物価指数が前年比+2.5%、うち、パンは前年比+10.1%、麺類は前年比+8.8%に対して、米は前年比+0.7%。</li><li>平成20年産米の相対取引価格は15,146円/60kgで、前年比+982円、+6.9%。</li><li>精米小売価格(コシヒカリ)は2,615円/5kgで、前年比+5円、+0.2%。</li></ul>
---	--

②	<p>② &lt;需要の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>平成24/25年の需要実績は781万トンと、前年実績差▲32万トン(▲4.0%)。</li></ul> <p>② &lt;米価の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>食料の消費者物価指数が前年比▲1.1%、うち、パンは前年比▲2.7%、麺類は前年比▲1.8%に対して、米は前年比+7.5%。</li><li>平成24年産米の相対取引価格は16,501円/60kgで、前年比+1,286円、+8.5%。</li><li>精米小売価格(コシヒカリ)は2,587円/5kgで、前年比+92円、+3.7%。</li></ul>
---	--

③	<p>③ &lt;需要の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>令和元/2年の需要実績は714万トンと、前年実績差▲20万トン(▲2.7%)。</li></ul> <p>③ &lt;米価の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>食料の消費者物価指数が前年比+1.4%、うち、パンは前年比±0.0%、麺類は前年比+3.2%に対して、米は前年比+0.6%。</li><li>令和元年産米の相対取引価格は15,716円/60kgで、前年比+28円、+0.2%。</li><li>精米小売価格(コシヒカリ)は2,446円/5kgで、前年比▲4円、▲0.1%。</li></ul>
---	---

注1 需要実績は、当年7月から翌年6月までの主食用米等の需要量。(資料:農林水産省「米穀の需給及び価格に関する基本指針」)

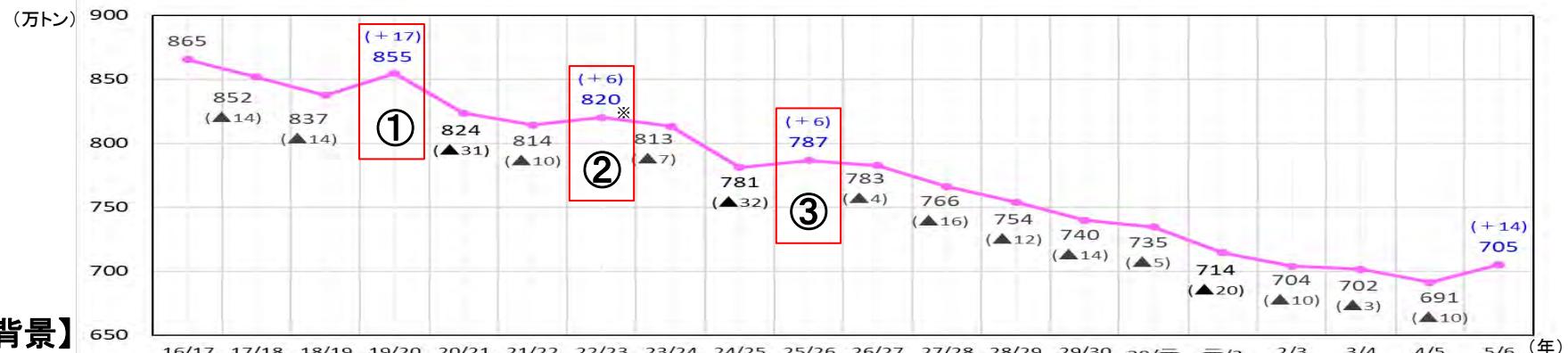
注2 消費者物価指数は、月次データの当年7月から翌年6月までの指数を単純平均により算出。(資料:総務省「消費者物価指数(2020年基準)」)

注3 精米小売価格は、月次データの当年7月から翌年6月までの価格(東京都区部におけるコシヒカリの価格)を単純平均により算出。(資料:総務省「小売物価統計 動向編」)

## (参考)需要増加時の背景

- 過去の需要実績増加の背景は、食料全体に比べ米の値ごろ感があったこと、人口が増加したこと、1等米比率が低下し精米歩留まりが低下したことがあげられる。
- 一方で、米価が高水準になることで、需要が前年より大きく減少するような年産もある。

### 【主食用米の需要実績の推移】



### 【需要増の背景】

#### ① ア 米の値ごろ感

- 食料の消費者物価指数が前年比+1.1%、うち、パンは前年比+5.5%、麺類は前年比+4.8%に対して、米は前年比▲2.1%。  
(19年産米の相対取引価格は14,164円/60kg(前年比▲1,039円、▲6.8%)、精米小売価格(コシヒカリ)は2,610円/5kg(前年比▲101円、▲3.7%)。)

#### イ 人口の微増

- 前年から0.1%増加(約9千トン相当)。

#### ② ア 米の値ごろ感

- 食料の消費者物価指数が前年比▲0.1%、うち、パンは前年比▲1.8%、麺類は前年比▲1.4%に対して、米は前年比▲6.1%。  
(22年産米の相対取引価格は12,711円/60kg(前年比▲1,759円、▲12.2%)、精米小売価格(コシヒカリ)が2,399円/5kg(前年比▲123円、▲4.9%)。)

#### イ 1等米比率の低下による精米歩留まりの減少

- 22年産米は、梅雨明け後9月上旬まで全国的に記録的な高温で推移し、一部地域で白未熟粒等が多発するなどして、1等米比率が63.6%(規格外を除く)と平年より大幅に減少し、精米歩留まりが低下。  
(※平成22/23年の需要実績820万トンは、精米歩留まりの減少率▲1.5%分の10万トンが控除されており、その分を加えると前年差+16万トン。)

#### ③ ア 米の値ごろ感

- 食料の消費者物価指数が前年比+2.4%、うち、パンは前年比+1.4%、麺類は前年比+0.4%に対して、米は前年比▲3.9%。  
(25年産米の相対取引価格は14,341円/60kg(前年比▲2,160円、▲13.1%)、精米小売価格(コシヒカリ)は2,504円/5kg(前年比▲84円、▲3.2%)。)

注1 需要実績は、当年7月から翌年6月までの需要量。(資料:農林水産省「米穀の需給及び価格に関する基本指針」)

注2 消費者物価指数は、月次データの当年7月から翌年6月までの指数を単純平均により算出。(資料:総務省「消費者物価指数(2020年基準)」)

注3 精米小売価格は、月次データの当年7月から翌年6月までの価格(東京都区部におけるコシヒカリの価格)を単純平均により算出。(資料:総務省「小売物価統計 動向編」)

注4 人口については、10月1日現在の値。(資料:総務省「人口統計」)

# 米の販売数量の推移

- 米穀販売事業者における令和6年1月以降の販売数量は、小売事業者向け、中食・外食事業者等向けともに概ね前年を上回って推移していたが、直近9月の販売数量は、小売事業者向け、中食・外食事業者等向けともに前年を下回る数量となっている。
- 1世帯1人当たりの購入数量は、5・6月は前年同期を1割程度上回って推移し、7月は前年と同程度、8月は3割程度の増加となっている。

## 【米穀販売事業者における販売数量の動向(前年同月比)(速報)】

	5年1月 ～12月計	6年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小売事業者向け	102%	106%	108%	107%	108%	106%	114%	104%	100%	86%			
(※令和元年との比較)	(103%)	(110%)	(111%)	(108%)	(109%)	(114%)	(116%)	(104%)	(107%)	(87%)			
中食・外食事業者等向け	105%	103%	106%	100%	99%	103%	98%	99%	100%	97%			
(※令和元年との比較)	(97%)	(96%)	(100%)	(95%)	(94%)	(102%)	(97%)	(97%)	(97%)	(98%)			
販売数量計	103%	105%	107%	104%	104%	105%	107%	102%	100%	91%			
(※令和元年との比較)	(101%)	(103%)	(106%)	(102%)	(102%)	(108%)	(107%)	(100%)	(102%)	(92%)			

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1:報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000㌧以上の販売事業者(年間取扱数量約150万㌧(令和5年産主食用米等の生産量661万㌧の約2割))である。

2:上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

3:令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年(4月までは平成31年)の同月との比較をした値を記載。

## 【購入数量の推移(家計調査)】

(単位:kg、%、人)

		5年1月 ～12月計	6年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
米	1世帯当たり 購入数量	56.64	3.52	3.92	4.49	4.38	4.87	4.64	4.37	5.73				
	前年同期比	98.8%	94.6%	96.6%	105.6%	97.1%	109.4%	109.7%	99.5%	129.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1世帯1人当たり 購入数量	19.56	1.22	1.36	1.55	1.52	1.69	1.61	1.52	1.99	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	前年同期比	99.3%	95.0%	96.9%	106.0%	97.8%	110.2%	110.5%	100.2%	129.5%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
パン	1世帯当たり 前年同期比	97.9%	103.9%	101.2%	104.0%	101.4%	99.7%	96.9%	102.3%	103.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1世帯1人当たり 前年同期比	98.4%	104.3%	101.5%	104.3%	102.1%	100.4%	97.6%	103.0%	104.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
麺類	1世帯当たり 前年同期比	93.7%	99.2%	100.0%	99.6%	94.1%	97.7%	103.7%	93.4%	104.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1世帯1人当たり 前年同期比	94.2%	99.6%	100.4%	99.9%	94.7%	98.4%	104.4%	94.0%	105.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
世帯人員		2.90人	2.89人	2.89人	2.88人	2.88人	2.88人	2.88人	2.88人	2.88人				

資料:総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

注:1世帯1人当たりの値については、1世帯当たりの値を世帯人員で除して算出。

## 精米歩留まりの状況について(事業者の精米実績)

- 令和5年産の精米歩留まりについては、回答のあった大手卸売業者（14社）及び米穀店（7社）では、事業者ごとに▲0.2%～▲4.2%とばらつきがあるが、21社の精米歩留まりを単純平均すると88.5%と、令和2～4年産の平均と比較すると▲1.7%減少。
- 令和6年産の9月末時点での精米歩留まりは89.0%と、令和2～4年産の平均と比較すると▲1.2%減少し、令和5年産と比較すると+0.5%増加している。なお、令和6年産は、出回りから概ね1～2か月の実績であり、今後、出回りが進めば状況は変動する。

### <精米歩留まり(調査結果)>

(単位 : %)

過去の精米歩留まり				昨年の精米歩留まり		今年の精米歩留まり		
2年産	3年産	4年産	2～4年産平均 ①	5年産 ②	過去平均との比較 ②-①	6年産 ③	過去平均との比較 ③-①	昨年との比較 ③-②
90.0	90.3	90.2	90.2	88.5	▲ 1.7	89.0	▲ 1.2	0.5

注:いずれの年産も令和6年9月末時点の精米歩留まりであることから、令和6年産については出回りからおおむね1～2か月分の実績となる。

## (参考)令和5年産の農産物検査等級の低下等による精米歩留まりの減少について

- 農産物検査の等級比率を基に試算した精米歩留まりの過去10年（平成25年～令和4年）平均値は91.4%。
- 令和5年は、高温・渴水の影響により1等比率が前年より約18%減少。これにより、等級比率を基に試算した精米歩留まりは90.6%と過去10年の平均との比較で▲0.8%減少。
- 一方、5年産の精米歩留まりの減少については、大手卸売業者（6社）からの聞き取りでは、産地・銘柄や工場ごとで+1.8%～▲3.0%とばらつきがあるが、6社の主要銘柄別の精米歩留まりを単純平均すると▲1.4%の減少。

### ＜精米歩留まりの推移（試算）＞

年産	水稻うるち玄米検査等級比率 (規格外を除く)			主食用米生産量④ (玄米千トン)			精米流通量⑧=(⑨+⑩+⑪) (精米千トン)				歩留り 減少率 ⑧/④	
	1等 ①	2等 ②	3等 ③	合計	1等 ⑤ (④×①)	2等 ⑥ (④×②)	3等 ⑦ (④×③)	合計	1等 ⑨ (⑤×92%)	2等 ⑩ (⑥×89%)	3等 ⑪ (⑦×85%)	
平成25	80.4%	17.7%	1.9%	8,182	6,579	1,449	154	7,473	6,052	1,290	131	91.3%
26	83.0%	15.6%	1.4%	7,882	6,545	1,229	107	7,207	6,022	1,094	91	91.4%
27	83.9%	14.4%	1.7%	7,442	6,244	1,069	128	6,806	5,745	952	109	91.4%
28	84.8%	13.8%	1.4%	7,496	6,357	1,034	104	6,858	5,849	921	89	91.5%
29	83.9%	14.5%	1.6%	7,306	6,131	1,059	116	6,682	5,640	942	99	91.5%
30	82.1%	16.1%	1.8%	7,327	6,014	1,178	136	6,696	5,533	1,048	115	91.4%
令和元	74.7%	22.2%	3.0%	7,261	5,427	1,614	220	6,616	4,993	1,436	187	91.1%
2	81.2%	16.8%	2.0%	7,226	5,866	1,216	145	6,601	5,396	1,082	123	91.4%
3	84.5%	14.1%	1.4%	7,007	5,923	986	97	6,410	5,449	878	83	91.5%
4	80.1%	17.9%	2.1%	6,701	5,366	1,197	138	6,119	4,937	1,065	118	91.3%
5	61.8%	31.0%	7.2%	6,610	4,088	2,048	474	5,987	3,761	1,823	403	90.6%

注1 令和5年産の農産物検査結果は3月31日現在（速報値）の数値。

注2 等級ごとの精米歩留まりは、「農産物検査規格・米穀の取引に関する検討会資料（農産物規格・検査の情勢（令和2年9月））」の精米歩留まり（1等92%、2等89%、3等85%）を使用して試算。

注3 令和5年産の精米歩留まりについては、大手卸売業者（6社）の令和5年12月末までの聞き取りによるもの。

過去10年平均

91.4%

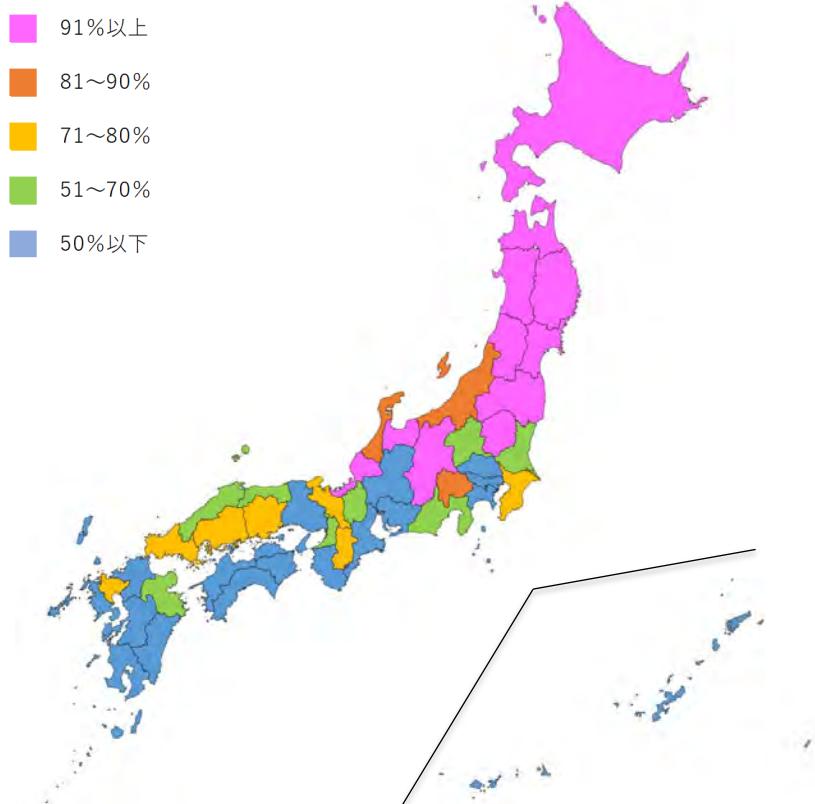
平均値との差

▲0.8%

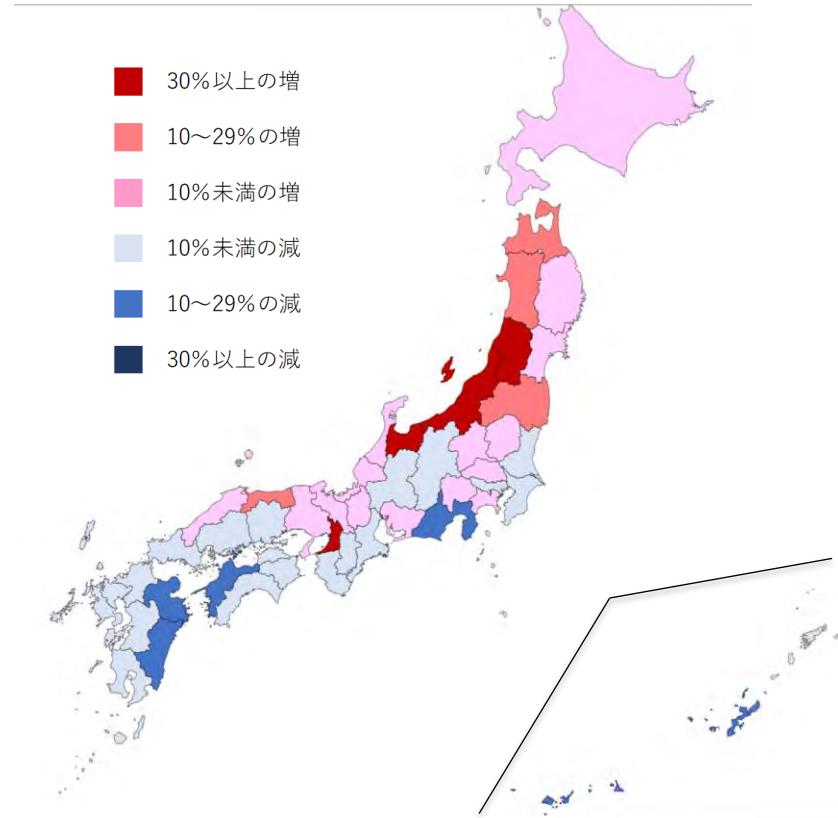
# 令和6年産水稻うるち玄米の1等比率及び前年産比較（9月30日現在）

- 令和6年産水稻うるち玄米の9月30日現在の検査数量は、過去5年（令和元～5年産）平均175.3万トンよりも多い181.9万トンとなっている。
- 水稻うるち玄米の9月30日現在の1等比率は、過去5年平均73.2%とほぼ同じ77.3%となっている。
- 登熟期の高温による影響により9月末の1等比率が例年よりも低い状況にあった令和5年産に比べ、新潟県84.0%（対前年同期：+70.5%）、山形県95.0%（対前年同期：+40.3%）など23県において、1等比率が増加している。

1等比率(6年産・9月末時点)



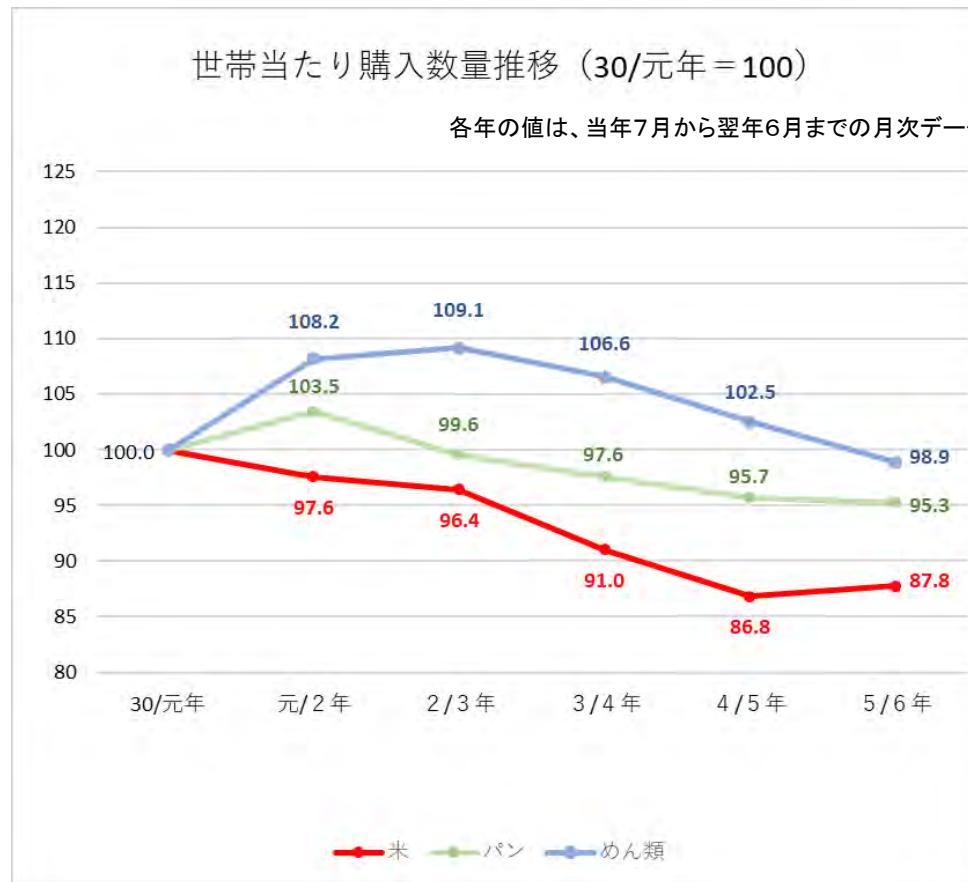
1等比率 5年産との比較(9月末時点)



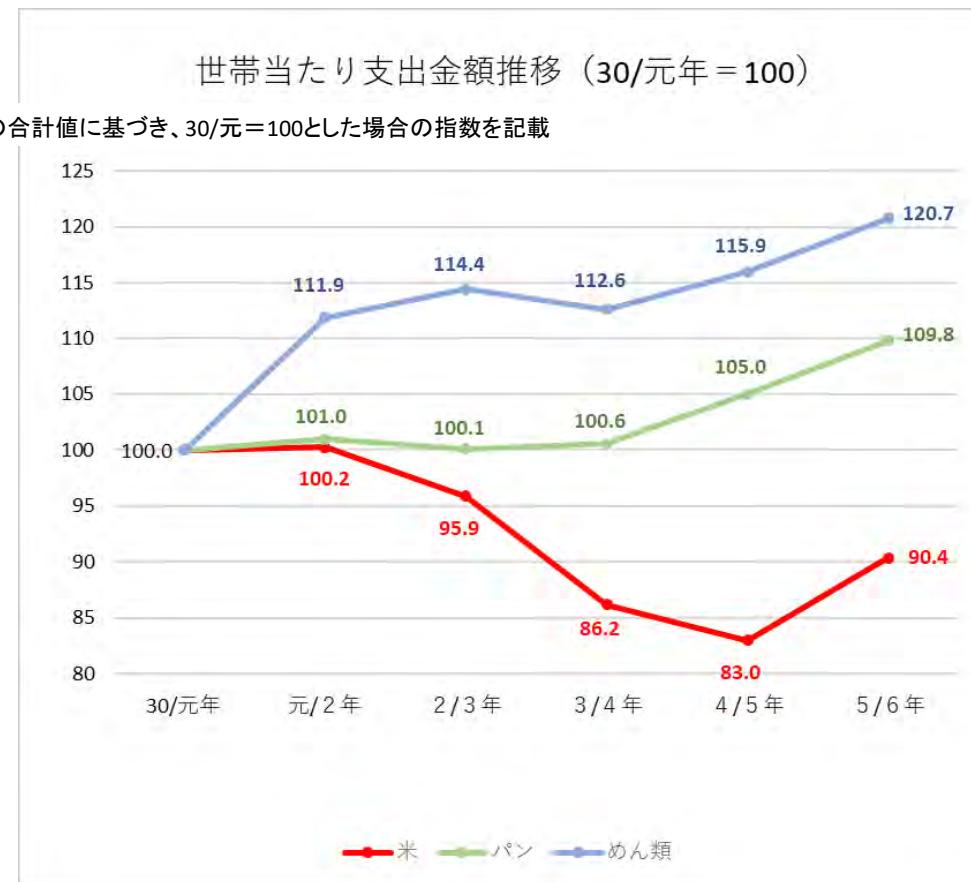
## 消費動向(①家計調査の購入数量、支出金額のトレンド)

- 米の消費動向を家計調査で見ると、令和4/5年までは購入数量、支出金額ともに減少傾向で推移。令和5/6年は上昇に転じ、購入数量は平成30/令和元年を100とした場合の指数で87.8（前年比+1.2%）、支出金額は90.4（前年比+8.9%）となっている。
- また、他の食品（パン、めん類）と比べると、米の購入数量は低い水準で推移。支出金額については、パンやめん類が上昇傾向で推移してきたのに対し、米は令和4/5年まで減少傾向で推移し、令和5/6年では上昇に転じている。

(1)1世帯当たりの購入数量の推移(総務省 家計調査)



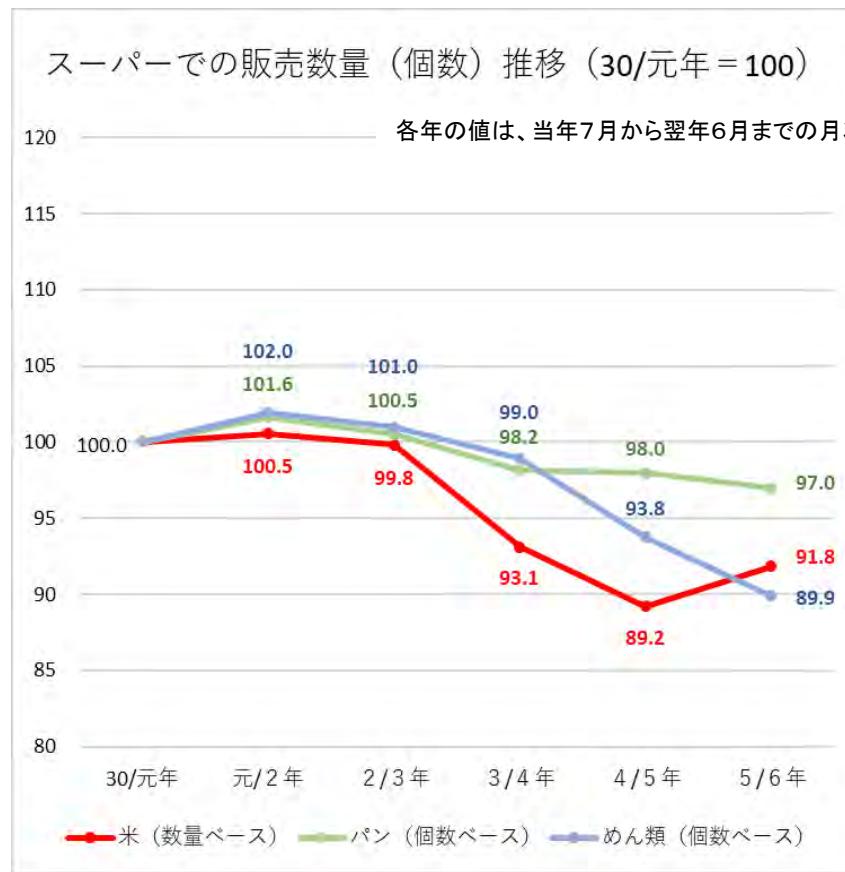
(2)1世帯当たりの支出金額の推移(総務省 家計調査)



## 消費動向(②POSの販売数量、販売金額のトレンド)

- 消費の動向をPOSデータで見ると、スーパーでの販売数量（個数）は、令和元/2年以降、米、パン、めん類のいずれも減少傾向で推移し、米のみ、令和5/6年は前年比+2.9%の増加に転じている。
- また、販売金額は、パン、めん類は増加傾向で推移しているのに対し、米は令和4/5年まで減少傾向で推移し、令和5/6年は増加に転じている。

(1)スーパーでの販売数量(個数)の推移(POSデータ 全国)



(2)スーパーでの販売金額の推移(POSデータ 全国)



資料:(株)KSP-SPが提供するPOSデータのうち、平成30年7月～令和6年6月までの間、継続して調査をしている店舗(約600店舗)のデータに基づき農林水産省が作成